

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 学校法人君津学園 市原中央高等学校
 種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
 所在地 〒290-0215
千葉県市原市土宇 1481-1
 E-mail ichihara-chuo@kimigaku-ich.ed.jp
 Website <http://www.kimigaku.ed.jp/ich/>
 児童生徒数 男子 502 名 女子 410 名 合計 912 名
 児童・生徒の年齢 16 歳～18 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

国際理解事業及びボランティア活動において、本年度も継続的な取り組みを行った。英語コースの第1学年に学校独自科目として設定した『UNESCO (ユネスコ)』では、外国人講師の指導のもと、水資源や森林保護、世界遺産について学び、ポスタープレゼンテーションを行った。発表に使用したポスターを校内に掲示することで、他の生徒の理解に役立てることができた。平成20年に国際ロータリークラブの認証を受けたインターアクトクラブ内に、ユネスコ班を設定し、千葉県内で実施される、各種ユネスコ会議に出席することで情報を共有するとともに、学習の機会を得ることができた。エコキャップ回収、学校周辺及び無人駅の清掃と植栽活動、募金活動などは、学校全体で取り組むボランティア活動として定着をきてきており、大きな成果をあげている。また、千葉県ユニセフ協会の協力を得て、校内において定期的に実施している『ユニセフパネル展』では、世界の子供たちが抱える問題について生徒一人ひとりが考える機会となっている。ユニセフとの協働を通じて、生徒の国際支援活動やボランティア活動への意識が高まり、年末の街頭募金活動にも参加した。

昨年度に続き、本年度もユニクロの支援による『届けよう、服のチカラプロジェクト』に力を入れた。本校の併設校で、ユネスコスクールに加盟する清和大学附属八重原幼稚園と協働で、子供用の古着の提供を募った。市原中央高校と幼稚園の多くの保護者の協力を得て、段ボール箱16箱分の古着が集まり、ユニクロを通じてモンゴルへ送られた。古着の提供を呼びかけるためのポスターやチラシの作成、回収箱の製作などに取り組み、生徒一人ひとりが達成感を感じることができた。このほかに、文化祭において日頃のボランティア活動の様子を紹介するブースを設置し、津波による被災した東北の企業から大量に購入して販売した。販売した利益を、地震の被害にあった熊本にある熊本国府高校インターアクトクラブに送金し、地域でのボランティア活動に生かしてもらうこととした。

国際理解事業としては、マレーシア、台湾への研修生徒派遣を行なったほか、オーストラリア・ブリスベンにある姉妹校との相互訪問交流や韓国の学校とのSkype交流を行った。また、英語コース1年生を対象とした、フィリピンでの3泊4日のアジア異文化研修を実施した。独自科目である『UNESCO (ユネスコ)』で学んだ内容を生かして、スラム街におけるNGO団体の活動視察、孤児院でのボランティア活動、自然環境保護について学ぶフィールドワークなどを、国連の支援のもとに実施し、成果をあげた。さらに、JETRO研修生が訪問した際には、ミャンマーとラオスの『両国の抱える問題』について討論するとともに、異文化理解を深めるグループディスカッションも行なった。これらの事業を通して、生徒一人ひとりの国際理解に対する意識が高まるとともに、コミュニケーション手段として用いられる英語力の大幅な向上も見ることができた。

『地域から世界へ』をテーマに、今年度は近隣小学校との交流を新たに始めたが、次年度はさらに多くの地域の人々と関わりを持ちながら、生徒一人ひとりの『気づき』につながる活動を実施していくことを計画している。



UNESCO 科目設定



届けよう服のチカラ」プロジェクト



ユニセフ街頭募金



Skype による韓国学校との交流



近隣小学校での国際交流行事通訳ボランティア

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()